

2020 年度岡山大学実践コミュニケーション論 レジューメ【A クラス】

授業時限: 5時限目 14:00~15:00 6時限目 15:10~16:10

本科目は、社会人に対する**生涯学習**としての**グローバル視点からの職業志向の教育**(リカレント教育におけるリフレッシュ教育)をも視野に入れた**ESD** (Education for Sustainable Development) を通じた **SDGs*** (Sustainable Development Goals) への**実践科目**という位置付けを考慮して、(既存の又はこれからの)**グローバル企業の持つ実際の課題**を、文理融合チームワーク (diversity を inclusion することも狙い) による模擬実践する **PBL 授業**を通じて**アクティブラーニング**を**実践**し、**チームで働く力とコミュニケーションの力を修得**するとともに、**グローバル的視点を持つ人材育成**に貢献するよう工夫された**持続可能な社会人基礎力**を担う**実践的授業**となっています。

(担当:長光正明) *SDGs:外務省サイト <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html#reference>



WHO が掲げる**ライフスキル** (Life Skills)にも通じる授業を目指しています。

☞ <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/lifeskills.pdf>

A クラスの特質 ☞ **ビジネスのグローバルな視点の足掛かりとなる実践スキルの修得**

授業の特質(まとめ)

- ・社会人の生涯学習としての職業志向のリカレント教育(リフレッシュ教育)をも視野に入れた**ESD**を通じた**SDGs**への**実践科目**を目指す授業
- ・文理融合チームワーク (diversity を inclusion する狙い) による**模擬実践授業**を通じて**チームで働く力とコミュニケーションの力**の修得
- ・企業の国際化を担う**グローバル的視点を持つ人材育成**に貢献するよう工夫された**授業:国際取引の基礎知識およびスキルの修得**
- ・**グローバル企業の持つ実際の課題**を採り入れた**PBL 授業**による**アクティブラーニングの実践**・**持続可能な社会人基礎力**を担う**実践的授業**

授業は**五つのセッション**から成り、**三つの実践課題**を解決していきます⇒**授業日程表** <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/schedule2020.pdf>

第1セッション(導入セッション)

- 第1回 10月07日(水): (オリエンテーション) 授業の特質と目標、グローバル企業の国際取引の基礎知識について(各セッションで随時触れます)
- 第2回 10月14日(水): (授業の目的) 「社会人基礎力」と「チームで働く力」の位置付け、チーム活動とは、グローバルとは、企業とは、
- 第3回 10月21日(水): (授業の意義) PBLとその効果とは、グローバル企業のPBL課題、ビジネスコミュニケーションについて
- 第4回 10月28日(水): (授業の進め方) チームでのマナーと留意点、売買とは、輸出入とは、儲けとは

・まず、**一グループ 4~5 人前後のチーム分け**をしましょう。このチーム分けは、以後、各セッション(提示する課題)ごとに(最終セッションを除いて)行います。「**チーム分け手順**」→ <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/teaming.pdf>

・次のサイトにある**社会人基礎力評価シート(授業開始時用)**の配付:<http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/reflection-start.pdf>

⇒経済産業省の提唱する「社会人基礎力」の前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の三つの能力について、自身でこの授業の開始時と終了時に評価をして、どう変わったか、変わらなかったかを分析するための評価シートです。今回配付する評価シートは授業開始時用です。

A 本講座の目的と意義

「社会人基礎力」と「チームで働く力」の位置付け

出典サイト：<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。

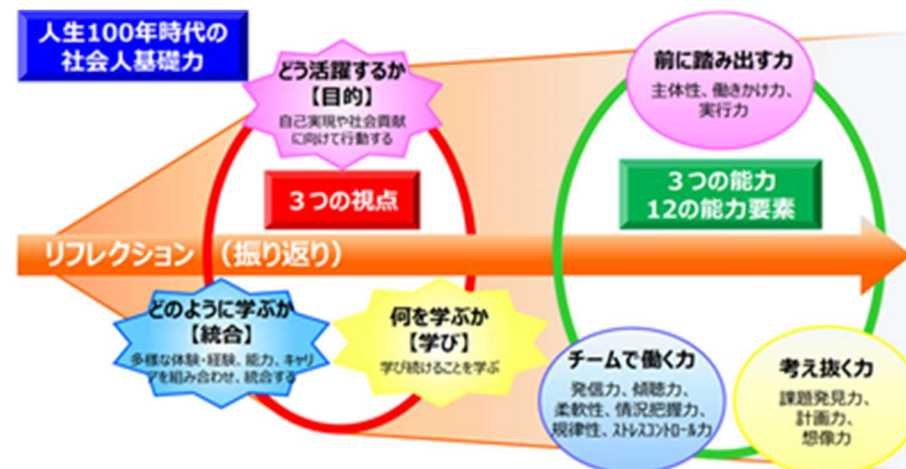
「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006年に発表した「社会人基礎力」はおそらくその重要性を増しており、有効ですが、「人生100年時代」ならではの切り口・視点が必要となっていました。

こうした状況を踏まえ、平成29年度に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」において、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。社会人基礎力の3つの能力・12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられます。



経産省の「人生100年時代の社会人基礎力」の説明

PPT資料：https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku_PR.pptx



社会人基礎力について理解したところで、早速、配付しました「社会人基礎力評価シート(授業開始時用)」を作成してください。

作成したシートは、授業の最後にする評価シートと比較しますので、失くさないよう保管しておいてください。

「社会人基礎力評価シート(授業開始時用)」

社会人基礎力評価シート(授業開始時用)

出典：日本インターンシップ推進協会の「社会人基礎力評価シート」<http://www.jipc.or.jp/pdf/Sheet3.pdf> 及び国学生支援ネットワークの「社会人基礎力チェックリスト」https://www.or.jp/pdf/checklist_02.pdf をもとに加工・修正を加えています。
経済産業省の提唱する「社会人基礎力」の前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の三つの能力について、自身でこの授業の開始時と終了時に評価をして、どう変わったか、変わらなかったか分析してみよう。

開始時の評価 年 月 日 学部 年生 学籍番号と氏名:
評価欄に✓を入れてください：1 優れている、2 やや優れている、3 標準的、4 やや劣る、5 劣る (総点数の少ない方がよい)

能力	能力要素	評価項目	評価					評価の説明	
			1	2	3	4	5		計
前 に 踏 み 出 す 力	主体性 物事に進んで取り組む力	指示がなくても、やるべきことを自ら見つけて取り組んでいる							
		知識・技術を意欲的に身につけようとしている							
		他人が嫌がることも行っている							
考 え 抜 く 力	働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力	周囲の人々に、目的を共有する働きかけを進んで行っている							
		周囲の人々と意識して協働している							
		周囲の人々に、ともに行動するよう声をかけている							
チ ー ム で 働 く	実行力 目的を設定し確実に行動する力	自ら目標を設定し、その達成に取り組んでいる							
		目標達成の手順、方法を考え、確実に進めている							
		困難に遭遇しても、粘り強く行動している							小計:
考 え 抜 く 力	課題発見力 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	課題を的確に把握し分析している							
		分析結果をもとに課題点を見出している							
		取り組むべき課題を明確にしている							
考 え 抜 く 力	計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	課題解決のための手順、方法を考え出している							
		手順、方法は、常に複数案を用意している							
		複数案の中から最適案を選択している							
考 え 抜 く 力	創造力 新しい価値を生み出す力	常に新しい発想、考えを身につけるような行動をとっている							
		良い発想をするための方法を積極的に習得している							
		課題に対して新しい解決方法を考え出している							小計:
チ ー ム で 働 く	発信力 自分の意見をわかりやすく伝える力	事前に話すポイントを整理している							
		要点を押えて理路整然と話している							
		相手の立場、気持ちを考えて話している							
チ ー ム で 働 く	傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力	相手が話しやすい雰囲気づくりをしている							
		相手の話を前向きに聞く態度を取って聞いている							
		適切なタイミングで質問をしている							

次の経産省社会人基礎力入門書のサイトの11頁を開き、社会人基礎力検定試験にも挑戦して、採点してみてください。

<http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10249573/www.meti.go.jp/policy/kisorvoku/syakaijinkisorvokunyuumonfree.pdf>

目指せ1級!
社会人基礎力検定試験

この検定に合格、隔れて一級を取得すれば優良社会人としての資格が得られるというわけではありません。すみません。軽い気分でもやってもOKです。ちょっとした参考になるかも。

採点してみよう。

A～Dのチャートの結果(ポイント)の合計があなたの社会人基礎力検定獲得ポイントです。

12～10点
おめでとう!基礎力1級!!
おめでとうございます。社会での活躍を期待します。

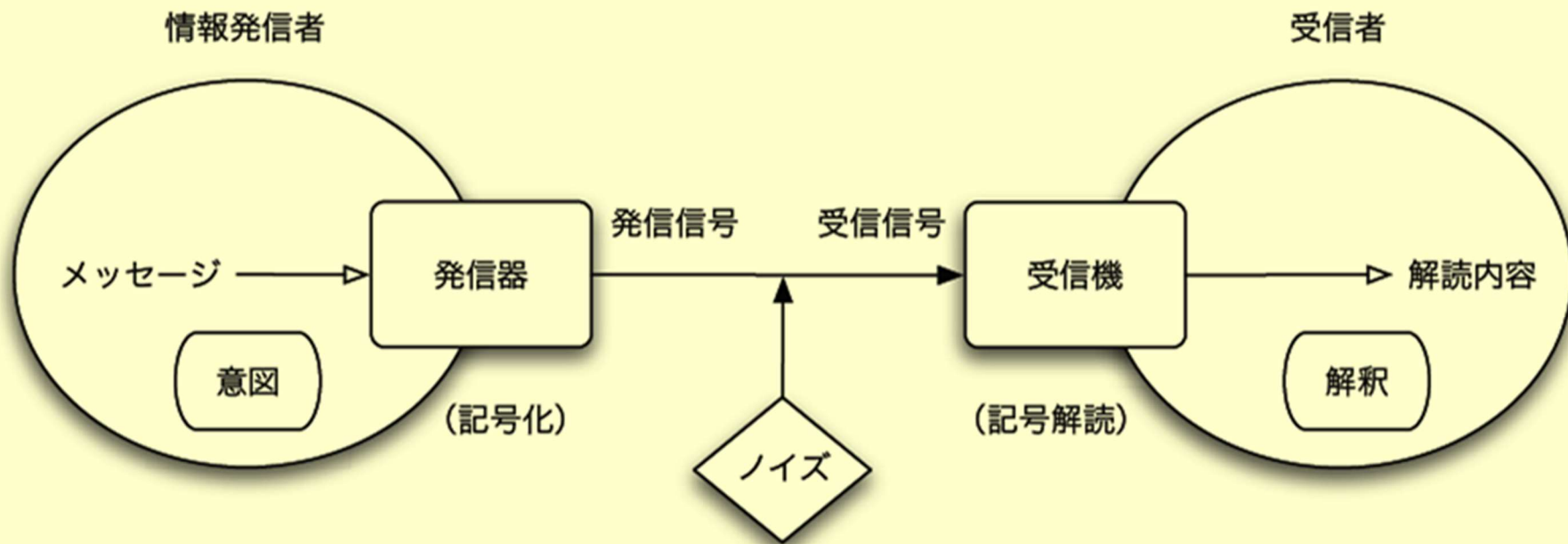
9～5点
頑張りが足りないポイントを自覚しよう。
まずは気づいた感じの人だ。あなたは、むしろ人間、アホコがあるのは当然です。問題は自分が不足するのは何となく、努力できるかどうか、それができたらあなたもぜひ日本の未来を背負ってほしい。

4～0点
うーん。社会人基礎力とは何かを常に自覚して自己改革していこう。
オライ、お前も人だ。あなたは、しかし、もしも死ぬにやってくる結果なら、ライフスタイルを変えるでいい資格があるかも。だってあなたも日本の未来を背負うことになるから。

コミュニケーションについて

出典サイト: <http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/060807comuni.html>

コミュニケーションとは、池田光穂（いけだ・みつほ）大阪大学教授の上のサイトによると、「**伝達の共有**」であり、そのシステムは下図のモデルのように、「情報源（下図で「情報発信者」と表記）は、伝えたいメッセージを選択し、それを信号に変え、コミュニケーションチャンネル（コミュニケーション媒体で、音波、電線、電波、インターネットのケーブルなど）を通して、受信体（「受信者」と表記）に送られる。この伝達過程で、情報はさまざまな妨害をうけ、正確に伝えられないことがある。それをこのモデルはノイズと定義する。受信者は受け取った信号を再びメッセージに解読して、情報発信者の発したメッセージを解読している。**情報発信者のメッセージと受信者による解読内容が合致した（共有された）時、コミュニケーションが成立した**というものであると説明されています。



シャノンとウィーバー（1949）によるコミュニケーションの図式モデル（池田原図）
 Shannon, Claude E. and Warren Weaver, 1949. The mathematical theory of communication. Illinois: University of Illinois Press.

本授業では、このような「コミュニケーション」、それ自体を論ずるのではなく、コミュニケーションを实践して、**お互い齟齬の無い正確な伝達内容を共有すること**により、本授業で目論む、**チーム**での PBL (課題解決型学習法。後程、説明します。)を通じて、**企業**や職場で必要な「**チームで働く力**」を修得しようとするものです。

コミュニケーションのこのような本質(つまり、**齟齬の無い正確な伝達内容の共有**)を意識しつつ、チーム内における PBL を実践し、チーム間でその PBL の成果を発表していきます。

特に、**グローバル化**におけるダイバシティ (Diversity) 環境下においては、国内外を問わず、コミュニケーションの本質たる、齟齬の無い正確な伝達内容の共有は不可欠だと考えます。

なお、グローバル企業の国際取引の基礎知識については、各セッションで随時触れていきます。

・**演習**: 次の言葉を各チームで考えてみよう

- ① 「**チーム**」は何?
- ② 「**企業**」は何?
- ③ 「**グローバル企業**」は何?

各発言を、各チームで各メンバーが参加できるようにボードなどに書きとめ/描きとめ(ファシリテーショングラフィック)を試みましょう!

【複数ユーザーでのインターネットを介した共同作業】の利用も!

- ① Word で共同作業する
以下をアドレスバーにコピーしてみてください:
⇒ <https://support.office.com/ja-jp/article/word-で共同作業する-96f230e6-7db9-461c-9544-c6796a84221e>
- ② Google ドキュメントで共同作業する
⇒ <https://dekiru.net/article/1202/>

考えた結果を、各チームで**発表**し、他チームからの**感想**もしてもらおう。

☞ PREP 法 <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/prep.pdf>

👉 発表する際のポイント: “**結論から先に言う。理由や説明はその後に。**” を心掛けよう! (PREP 法も参考に)。

提出: 各チームにおいて、各項目①~③を100文字以内に A4、1枚にまとめて、チームメンバー全員の名前を入れて、提出してください。

B 本講座の進め方

チームでのマナーと留意点

- ・人の意見や考えを否定しない。尊重する。
- ・積極的に参加し、発言する。
- ・引っ込み思案にならない。疑問があればどんどん質問する。
- ・人の意見や発言を丁寧に、正確に聞く。



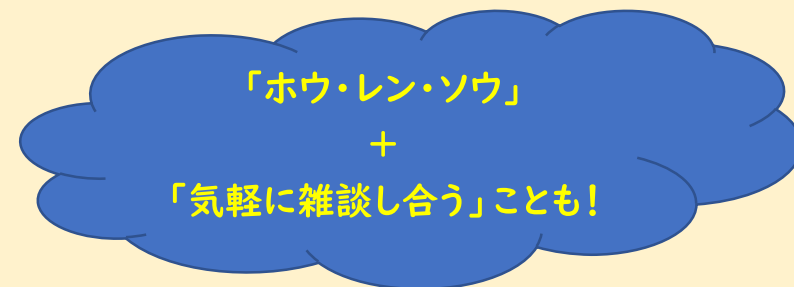
(イラストの出典:いらすとや)

- ・次の**ハウ・レン・ソウ**に留意しながらチームワークを進める:

自分の分担の調査結果を**報告**し合う

得た情報は**連絡**し合う

一人で抱えないで**相談**し合う




授業の進め方

生徒が主体となり、提示された課題についてまず生徒個人で考え、その意見を**チームで話し合い**、意見交換の中で課題への回答を出して行く過程を通じて**コミュニケーション力**をつけていきます。

講師は、解決へのヒントとしての方向付け(強制的でなく、各自が自発的に良い方向に誘導されるように)による選択肢を示唆します。(←Nudge 理論に基づく**ファシリテーター**として)

以下は、**チーム分け後の手順**についての説明です。

別紙の「**KPT** 法と **PDCA** サイクル」(P.11 の①の資料)を活用しながら進めます。

課題提示 ↓	課題の提示と説明 
課題解決 ↓	課題解決のための 考察と計画 ：必要に応じ、 まとめ役 の取り決め。 課題の本質は何かの考察。予想される 解決策(仮説) は検討つきそうか(仮説の設定が可能であればその設定)。何をどのように 調査 するのかの分析。各分担があればその 分担 の取り決め。
計画実行 ↓	課題解決に向けた計画に基づいて 調査を実行 する。仮説があればその 検証に向けた調査を実行 する。解決に必要な調査は、主に ネット情報での調査を主体 とする。
結果のまとめ ↓	調査(検証)結果のまとめ 。
発表と評価 ↓	全体に発表するための プレゼンの作成 。 プレゼン実行と評価 。
振り返り	頂いた評価に基づく振り返り ：チーム全体と個人の振り返り。今後調査したい課題は？(今後に向けた 問題意識の創出)

参考サイト：<https://career-ed-lab.mycampus.jp/career-column/737/>

PBLとは

PBL (problem-based learning 又は project-based learning) は、アメリカの教育学者のジョン・デューイの提唱する学習理論で、「課題解決型学習」ないし「問題解決型学習」と呼ばれ、学習者が問題を発見し、その問題を解決するために様々な努力をする過程で、経験や知識を得ていくという学習方法です。

これまでの、受け身的な教育と対比し、学習を能動的なものと規定し、知識の暗記にみられる受動的なものを脱却し、自ら問題を発見し解決していく能力を身につけていくことに本質をもとめた学習法。この学習法を **Active Learning** (AL) という。PBLはこのALの具体的手法の一つ。(参考資料: ウィキペディアより)

PBLの課題について

本授業では、昨今の企業のグローバル化に伴い、企業が現実直面する**グローバル的な課題**を取り上げます。企業のグローバル化は、その実務面においては、**ヒト、モノ・サービス (技術を含む)、資本 (カネ) の国際移動に係る事業活動**として表出します。

グローバル企業における実務面における活動実態



International な視点のイメージ

出典: https://www.irasutova.com/2015/09/blog-post_872.html

Global な視点のイメージ

出典: <https://www.illustr-box.jp/sozai/101510/>

International な視点のイメージ

出典: https://www.irasutova.com/2015/09/blog-post_242.html

演習: 「グローバルな視点」と「インターナショナルな視点」の違いは?

グローバルな視点とインターナショナルな視点について理解するためのヒント ☞ <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/global-okadai.pdf>

企業のグローバル的課題はかかる実務面で具体的に表れる**国際移動に係る事業活動に関する課題**となります。中でも、**モノの国際移動の課題が基本**となります。本授業で取り上げる課題も、このような視点に立ったものです。

モノの国際移動は、具体的にはモノの**輸出**や**輸入**のことであり、**国際物品売買取引**のことです。授業を通じて、これらのことを学習することも目論まれています。

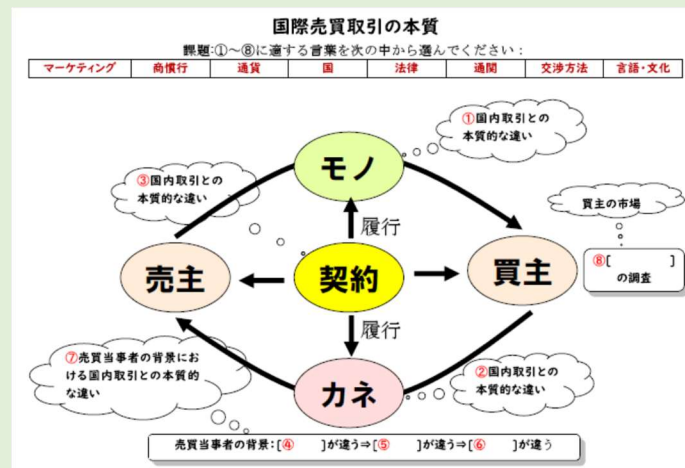
なお、本授業で捉える PBL の実践は、三つの能力（「**前に踏み出す力** Action」、「**考え抜く力** Thinking」、「**チームで働く力** Teamwork」）から成る「**社会人基礎力**」の内、特に「**チームで働く力**」の修得を目指しています。

① **演習**:「**売買**」て何？ 各チームで考えてみよう

② **演習**:国内物品売買と国際物品売買の違い

株式会社（営利法人）が求める利潤（儲け）をもたらす基になっている取引契約形態の主たるものには「**売買**」と「**請負**」がありますが、ここで、「**売買**」について、「国内でする売買」（**国内物品売買取引**）と「海外を相手にする売買」（**国際物品売買取引**）との違いを考えてみておきましょう。何が違うのか、何が同じなのか、各チームで話し合ってみてください。

次のサイトの図を参考にしながら話し合ってみてください：<http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/boeki-no-honsitsu-okadai.pdf>

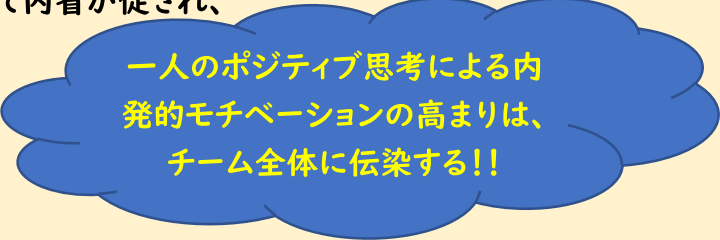


③ **演習**:「**輸出**」と「**輸入**」の定義？ 各チームで考えてみよう ⇒ 関税法と外為法 <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/yushutsu-yunyu-teigi.pdf>

チームで解決する PBL の効果について

チームで解決する PBL により、チーム内でのコミュニケーションを通じて、概ね以下の順序で、その効果が期待されます。

- ① 自分の役割やリーダーシップのありようを認識し、
- ② 自他意見の調整が図られ、
- ③ 「振り返り」及び「分かち合い」（振り返りの相互の情報交換）の実施を通じて内省が促され、
- ④ 「自己概念」が新たになり、
- ⑤ これが更なる主体的・肯定的にチームに向き合う姿勢となり、
- ⑥ ここに必然的に「内発的モチベーション」が培われ、
- ⑦ これが課題に直面した時に解決できるというゆるぎない自信（「自己効力感」Self-efficacy）につながる。



一人のポジティブ思考による内発的モチベーションの高まりは、チーム全体に伝染する!!

この「自己効力感」が、自身が置かれた職場というチームで役立つ「コンピタンス」（組織の自分に対する期待に応じきる能力）を形成する基盤となると期待されます。

参考文献：鯖戸善弘著「コミュニケーションと人間関係づくりのための グループ体験学習ワーク」2016/5/16 金子書房

PBL 提示の都度配付する資料について

① KPT 法と PDCA サイクル (PBL セッションを通じて作成) <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/kpt-pdca.pdf>

⇒この①の資料は、PBL セッションを通じて作成します。この作成によりチームワークとしての協働を促し、課題解決に向けた計画手順の共通認識のもと、チームで働く力を養う一助とします。

- ・「**KPT 法**」: プロジェクトを振り返る手法の一つ。
- ・「**PDCA サイクル**」: 仮説・検証型プロセスの循環により、業務を継続的に改善する手法。(1950 年代、米国の統計学者で、品質管理の父といわれる W・エドワーズ・デミングが提唱したフレームワーク)

① KPT 法と PDCA サイクル

KPT 法と PDCA サイクル

PBL の都度作成。この情報は、チームで共有します。 学部 年生 氏名

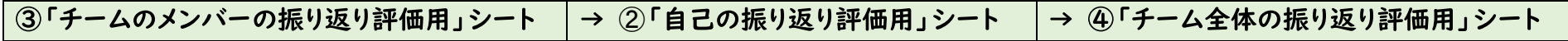
Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Action (改善)
立てた計画は? (簡潔に列挙する)	何をどう実行したか? (簡潔に列挙する)	K (Keep) 実施してよかったので、今後も継続すべきことを書き出す	T (Try) ①Keep の継続事項をすらすらと改善していくこととして、今後やるべきことを書き出す
		P (Problem) 失敗したことや課題・問題だと想うことを書き出す	T (Try) ②Problem で書き出した課題・問題の解決策・対策として、今後やるべきことを書き出す

KPT 法と PDCA サイクル

PBL の都度作成。この情報は、チームで共有します。 チーム名: 学部 年生 学籍番号と氏名:

Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Action (改善)
立てた計画は? (簡潔に列挙する)	何をどう実行したか? (簡潔に列挙する)	K (Keep) 実施してよかったので、今後も継続すべきことを書き出す	T (Try) ①Keep の継続事項をすらすらと改善していくこととして、今後やるべきことを書き出す
課題に対してどのように解決すべきかの仮説や計画など (調査方針や分析方針なども) を考え、それらを簡潔に書き出します。	立てた仮説の検証に向けて何をどう実行したか、立てた計画をどのように実行したか、実行の過程で、立てた目論見と違う実行があった場合、それをどう実行したかなどを書き出します。	立てた計画やその実行で、計画通り、仮説通りで成功したこと、良かったこと、上手くいったことなどを書き出します。	Keep の内容を踏まえて、今後、どのように改善していくのか、どのような知識や情報などを身に付けるべきか、新たに挑戦することなど書き出します。 (精神論ではなく、具体的なアクションまで落とし込まれていることがポイント)
① 課題解決の開始時に策定	② 課題解決の作業中及び作業完了時に策定	③ 課題解決の作業完了時に策定	
		P (Problem) 失敗したことや課題・問題だと想うことを書き出す	T (Try) ②Problem で書き出した課題・問題の解決策・対策として、今後やるべきことを書き出す
	実行の結果、立てた計画や仮説との間にズレがあったこと、そこにはどんな問題や原因があったのか、反省すべきと思うことなどを書き出します。 (責任問題の追求ではないため、個人を攻撃することは NG)		Problem の内容を踏まえて、ズレや問題・原因や失敗などを解決するにはどのようなことをすべきか、どのような知識や情報などが解決に必要なのか書き出します。
			主観を代入しないで、自分を責めることなく、客観的に、できるだけ虚心に振り返ります。

以下の振り返り評価シート作成の順番は、次の通りです：



- ② 自己の振り返り評価用 (PBL 終了時作成) <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/reflection-personal.pdf>
「自己採点」以外は、他のメンバーが自分に対して評価した③の「チームのメンバーの振り返り評価用」シートから転記します。
- ③ チームのメンバーの振り返り評価用 (PBL 終了時作成) <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/reflection-member.pdf>
自己以外のチームのメンバーの採点をします。採点后、該当者の②の「自己の振り返り評価用」に転記します。
- ④ チーム全体の振り返り評価用 (PBL 終了時作成) <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/reflection-team.pdf>
チームメンバー各自の各②「自己の振り返り評価用」シートの右端の「合計評価点数」を、この④「チーム全体の振り返り評価用」シートに転記して、そのチーム全体の評価をして、各チームごとに比較評価します。

⇒これらの②～④の振り返り評価用資料は、それらの作成を通じてチーム内で相互に評価し合っているという意識により、さらにチーム間の比較により、チームワークに対する自己のモチベーションが高まり、チームに対するモラルと貢献度が向上することを目指しています。

② 自己の振り返り評価用

③ チームのメンバーの振り返り評価用

④ チーム全体の振り返り評価用

自己の振り返り評価用 (PBL 終了時作成)
経済産業省の提唱する「社会人基礎力」及び「強みと課題」について、各 PBL の振り返り時に自己の評価をしてみよう。チームメンバーからの評価も聴こう。
記入日: 年 月 日 学部 学年 氏名

○1-5 の点数を入れよう (1 ぬれている, 2 ややぬれている, 3 標準的, 4 ややある, 5 ある) 点数の少ないほど良い。

能力評価	自己採点	名前:	名前:	名前:	名前:	合計評価点数
前に臨	主体性					
み出す	働きかけ力					
力	実行力					
考え抜	課題発見力					
く	計画力					
	創造力					
チーム	実行力					
で働く	柔軟性					
力	状況把握力					
	規律性					
	コミュニケーション力					
	合計評価点数					

○自分の強み・課題
強み/長所と考えられる点

課題/今後努力を要すると考えられる点

チームのメンバーの振り返り評価用 (PBL 終了時作成)
経済産業省の提唱する「社会人基礎力」及び「強みと課題」について、各 PBL の振り返り時にチームのメンバーの評価をしてみよう。
記入日: 年 月 日 学部 学年 氏名

○1-5 の点数を入れよう (1 ぬれている, 2 ややぬれている, 3 標準的, 4 ややある, 5 ある) 点数の少ないほど良い。

能力評価	名前:	名前:	名前:	名前:	名前:	合計評価点数
前に臨	主体性					
み出す	働きかけ力					
力	実行力					
考え抜	課題発見力					
く	計画力					
	創造力					
チーム	実行力					
で働く	柔軟性					
力	状況把握力					
	規律性					
	コミュニケーション力					
	合計評価点数					

○チームメンバーとして特に印象に残った強みと課題
強み/長所と考えられる点

課題/今後努力を要すると考えられる点

チーム全体の振り返り評価用 (PBL 終了時作成)
経済産業省の提唱する「社会人基礎力」及び「強みと課題」について、各 PBL の振り返り時にチーム全体の評価をしてみよう。
年 月 日 チーム名: 本紙作成代表者の学部 学年 学籍番号/氏名:

○1-5 の点数を入れよう (1 ぬれている, 2 ややぬれている, 3 標準的, 4 ややある, 5 ある) 点数の少ないほど良い。

能力評価	名前:	名前:	名前:	名前:	名前:	合計評価点数
前に臨	主体性					
み出す	働きかけ力					
力	実行力					
考え抜	課題発見力					
く	計画力					
	創造力					
チーム	実行力					
で働く	柔軟性					
力	状況把握力					
	規律性					
	コミュニケーション力					
	合計評価点数					

○チーム全体として特に印象に残った強みと課題
強み/長所と考えられる点

課題/今後努力を要すると考えられる点

① 演習:「儲け」(利益)は何? 各チームで考えてみよう

② 演習: 次のお餅屋さんの儲けを例に、企業の儲けのしくみを考えよう <http://nagamitsu1950.sakura.ne.jp/mochiya-no-arari.pdf>

「物流」に対する言葉。契約やカネに関する流れのこと。

餅屋の粗利
本問のねらい: 国産区分の概念と目標営業利益から目標売上高をたてる手順の学習
 月に「あんころ餅」一個造って、その一個を100円で販売する企業の場合に、次のような原価の内訳構成だったとします:

売上高 100円	売上原価 60円	製造原価	製造変動費 40円	あんころ餅の材料費	←一個当たり
			製造固定費 20円	餅職人の人件費と作業場の家賃や光熱費など	←一月当たり
粗利 40円	販売費*	固定販売費 25円	販売員の人件費と店舗の家賃や光熱費など		←一月当たり
		変動販売費 5円	包装容器		←一個当たり
	営業利益	10円	儲け		←一月当たり

*販管費とは、「販売費および一般管理費」のことです。

質問 1: 一月に二個造った場合の一個の製造原価はいくらでしょうか?

質問 2: その造った二個を、同月に、一個当たり100円で販売した場合の儲けはいくらですか?

質問 3: 一個販売するたびに残る粗利はいくらになりますか?

質問 4: 一月に1,000円儲けるには、何個売ればよいでしょうか?

「特約店」や「取次店」は?

「商流」の次の基本的な用語を押さえておこう

③ 演習: 「販売店」と「販売代理店」はどう違うの? 各チームで調べてみてください。

④ 演習: 以下の国際港および国際空港の動画を見て感想を話し合おう。→話し合った結果をまとめよう。→まとめた結果をチームごとに発表しよう。

水島港プロモーションムービー: https://www.youtube.com/watch?v=h2WXdUmO9Fo 新潟港コンテナヤードの紹介動画: https://www.n-wtt.jp/movie	Sea Freight
DB Schenker: https://www.dbschenker-seino.jp/jp-en/products/air-freight 巨大重量貨物の通関【名古屋税関】: https://www.youtube.com/watch?v=rh5UNInYIXw FIマシンの通関【名古屋税関】: https://www.youtube.com/watch?v=dirwDDtmaKM	Air Freight